

ともにも新聞



第4号

二〇二三年(令和四年)十月

輛の浦学園 学園会

日々の安全に感謝!

今月は、毎朝私たちの安全を見守ってください。交通安全指導員の片岡正廣さん、倉田幹生さん、吉本明夫さん、そして、スクールサポーターボランティアの高田由紀雄さんにお話をうかがいました。



片岡 正廣さん



高田 由紀雄さん

この活動を始められたきっかけは、子どもが好きだからだということ。そして、毎朝の活動が規則正しい生活につながり、健康に過ごせることも理由の一つだそうです。

日々心がけておられることは、車との接触事故が起きないように安全に配慮することや、死角となるところで事故が起きないように細心の注意をはらうことだということです。

毎朝関わってくださる皆さんから、メッセージがあります。
☆一つ目は、「大きな声で挨拶をしてほしい。」
☆二つ目は、「自分でも安全を意識してほしい。」
☆三つ目は、「皆で仲良く、今の貴重な時間を満喫してほしい。」というメッセージです。

インタビューして気付いたことがあります。伝えていただいた通り、昔の私は声掛けに対してあまり返事ができていませんでした。一年生の頃から声掛けをしてもらって、それが「当たり前」でした。でも、六年生になって今の環境に感謝できるようにになり、意識して返事をするようになりまし。みなさんも自分の行動を振り返ってみてはどうでしょうか。



吉本 明夫さん



倉田 幹生さん

「絆」リレー N04



「つくろい空間」で目を引く帆布製バック。これは、江戸時代から今に残る鞆港の波止などを改修した工楽松右衛門の創り上げた松右衛門帆布を使っているのだと教えてくださったのは、吉川兼子さん。時代を超えてつながる人たちの縁を感じ、この商品を扱うようになったと話してくださいました。

吉川さんが鞆に住み始めて三十年あまり。そのきっかけとなったのは、この鞆で子育てがしたいと思ったこと。昔から町の人びとが温かく、フレンドリーな雰囲気、人と人の交流が盛んにおこなわれていたという。そんな人々のつながりが深い鞆での生活がしたいと思われたそうです。

昔と今の「鞆」の変化について尋ねると、鞆が注目され始め、観光客がたくさん増えたと教えてくださいました。さらに今では、観光客だけではなく、移住する人が増えてきたことが大きなうれしい変化だと話してくださいました。

こんなに素敵な町だからこそ、勉強するために鞆を出た人たちが、学んだのち、帰ってきたいと思える町であってほしいと温かい笑顔で話されました。

鞆が昔から人と人とのつながりが深かったと教えていた中で、この温かい人たちに囲まれていくという環境を生かせるように、もっと鞆のよさを発信していきたいと思えました。ぼくたちが、学年を超えてしっかりとつながっていくことが、将来の鞆のつながりづくりに生かされると思います。

(七年 田口 晴也)



ありがとうを伝えたい

N04



鞆学の授業などで、何度も私達の探求のお手伝いをしてください。上野リサさん。

上野さんは、皆さんもご存知のように鞆学のロゴマークのデザインや、井田小学校との交流のときに使うTシャツやうちわなどの考案等を手掛けてくださっていたのです。

上野さんがこれまで鞆の浦学園のために活動して下さる理由。それは、上野さんのとても大きな地域愛からなりました。

上野さんの旦那さんは鞆小のOBで、大人になっても当時の友達との絆が続いていることや鞆への愛着心を知り、絆の強さや仲の良さに驚きを受けたそうです。それと同時に、大事なものにすべきだと思ひ、地域との交流や郷土愛を育てるお手伝いをしてほしい、鞆のみんなが帰ってきたいと思えるような町にするために何かできることをしたいと思つたと教えてくださいました。それから小さなことから一つずつ、と十年以上も続けていらつしやるようです。

上野さんは、鞆だからこそその「つながり」に気づき、ご自身もその繋がりを広げ、さらに深めていく一人となつておられます。

そんな深い繋がりが生まれる鞆を誇りに思い、さらに、その「つながり」を私自身も大切にしていきたいと思ひました。

(九年 古山 朝子)



緑の募金



『緑の募金』へのご協力、ありがとうございます。みなさんのからの募金は、総額 四八〇〇円 になりました。

集まった募金は、森づくり、緑づくり、そして、それらに協力する人材づくりを進める「緑の募金事業」に使われます。私たちの生活の安心安全を維持するために、今後も自分のできることを一緒に考えていきましょう。

